

現代におけるリーダーシップのあり方についての検証 A consideration on the ideal state of leadership in modern days

1K07A098-8

指導教員 主査 正木宏明 先生

小西 遼

副査 作野誠一 先生

【序論】

今日の社会ではリーダーシップが非常に注目されている。激変の経済情勢の中で勝ち残る組織のリーダーへの注目や、目まぐるしく変わる政治のリーダーなどを背景に、真のリーダー像が検討されている。また、リーダーシップと同時に、集団の成員にも注視したフォロアーシップという言葉も使われるようになってきている。本論文では、それらを背景に、現代において求められているリーダーシップ像、さらにはリーダーの取るべき行動を、歴史上の先行研究やフォロアーの観点から検証を行った。

【第一章 リーダーシップとは】

リーダーシップの前にリーダーを考える。どのような状況になればリーダーが存在するか。リーダーがいれば集団は存在するが、集団があるところに必ずリーダーは存在するのだろうか。その関係として、集団に何らかの達成目標や課題が発生し、それらを達成するために誰かが成員に働きかけ、影響力を持てばリーダーがいると定義される。そして、影響力を持つために起こす行動をリーダーシップとした。リーダーとは、特別な資質を持ったような人物ではなく、集団での影響力をもち、フォロアーが存在すればそれがリーダーなのである。そして、集団の目的の達成のためにリーダーがとる行動がリーダーシップである。

【第二章 リーダーシップ研究の歴史】

古くからの偉人伝など、リーダーに関する研究はとても古くから存在し、時代に応じたリーダーシップ像が研究されてきた。それらの大きな流れとして、古代から20世紀までは「特性論」がほとんどであった。リーダーの才能とは先天的能力であり、リーダーとはどんな資質を備えているべきかという議論がなされてきた。それが20世紀に入り、特性論の限界から、科学管理法や人間関係論など、管理方法についてのアプローチが生まれた。それらの次には、リーダーの行動に注目した行動論が盛んになった。オハイオ研究(1954～)に先駆けて、PM理論など、因子分析的手法でのリーダーシップ行動の研究が始まった。オハイオ研究とPM理論では「配慮(M)」因子と「構造づくり(P)」因子の関係を分析した。行動の分析にも限界がみられ、条件行動論が盛んになった。リーダーの行動は集団の状況や成熟度によって変化するとしたものである。さらには、現代社会の閉塞感から、カリスマ的リーダーシップ論や変革的リーダーシップ論なども提唱されるようになった。

【第三章 フォロアーシップ】

リーダーシップを考えるうえで、フォロアーの存在は無視できない。フォロアーもそれぞれが意志や感情を持って行動する。絶対数や実務を行う点で考えると、フォロアーが集団の成否を左右し、同時に、リーダーの成否もフォロアーの働きが大きく関わってくる。

フォロアーシップについて、リーダーシップと対にして考える。リーダーは目標を定め、フォロアーに仕事を割り当てる役割がある。フォロアーは、与えられた仕事を達成しなければならない義務を持っている。さらに、集団の目的を果たすために、自らの成長をめざし、能動的・自律的に働きかけなければならない。

リーダーの影響力の対となるものをフォロアーの共感力と呼ぶ。リーダーの提示したビジョンを理解し、自らのビジョン・目標として共有する姿勢を持たなければならない。同時に、このようにフォロアーが能動的に行動できるように動機づけするのもリーダーの役割である。

【第四章 リーダーシップ行動の分析】

リーダーシップに関する研究は数多くあり、どのようなタイプのリーダーシップが有効かということは、PM理論や条件行動論などで議論されている。この章ではリーダーが実際に行動するときにとどのようなことに留意すべきか、どのようなプランを持って行動すべきか、ということに関して述べる。

リーダーシップには三つの局面がある。戦略的思考、行動、人間関係である。戦略的思考では、VSET 戦略的思考法を用い、戦略的思考を構築する。行動段階では、主体性、効力感、確信に焦点を当て、より優れたリーダーシップをとれる行動を体系化した。人間関係は、戦略的思考や優れた行動も、フォロアーとの関係が構築されたうえで効果がはっきりされるものであり、成員の価値観の多様性を認知し、そのうえで目的・目的を一致させるために、EQ・コミュニケーション能力が重要であるとした。これらのどの要因がかけても、効果的なリーダーシップは発揮されない。

【第五章 結論】

現代により当てはまるリーダーシップ像に必要な要素は、多様化する成員への影響力を持つためのコミュニケーション能力にある。カリスマ性や変革的リーダーシップ論は、現代の一般論としては当てはまりにくい。戦略的思考、率先した行動、フォロアーとの関係構築をできる人間が、望まれるリーダーシップ像と考える。